

大豆のうね間かん水を行いましょう！

梅雨明け後、降雨は少なく、干ばつが続くところも見られます。

大豆は開花期～登熟期に多くの水を必要とし、子実肥大期までのかん水は重要です。水不足になると落花や落莢、老化の促進による減収につながります。

今後も高温の傾向が続くと予想されていますので、「**うね間かん水**」を行いましょう。

【本葉展開後の場合】

・水不足により、葉が裏返り白く見える、または、7日以上雨が降っていない場合は「**うね間かん水**」を行いましょう。（→）

・排水溝（明渠）から思い切って「うね」の中まで水を走らせ、「うね」の肩を超すぐらいまで、土を湿らせてください。（→排水溝のみの通水では、「うね」の中央まで水分補給できません）



【播種直後から生育初期の場合】

・生育が遅れている場合は、本葉5葉期ごろになってから、「うね間かん水」を行い、生育を促進しましょう。



◎送水制限などで十分な用水の確保が難しい場合は、ほ場を分け、数日かけて徐々に入水して下さい。

◎うね間かん水は短時間で行います。ほ場全体に水が行き渡ったのち、ただちに水尻の板をはずして、速やかに排水して下さい。

農作業中はこまめな塩分・水分補給や休憩など、熱中症対策を行いましょう！